

令和2年度

第2回 ひょうごスーパーハイスクール運営指導委員会

第2回 学校評議員会 (兼 学校関係者評価委員会)

令和3年3月18日(木) 11:45 ~ 12:45

いたみホール 会議室



9月29日 体育祭



10月22日 秋季遠足(3年生 USJ)



11月21日 オンライン参加
「Sci-Tech Research Forum 2020」

兵庫県立伊丹高等学校

目 次

第2回 HSH 運営指導委員会並びに第2回学校評議員会の実施について・・・ p 1

ひょうごスーパーハイスクールの取組について・・・・・・・・・・・・・・・・ p 2～5

資 料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 6～16

<別紙> 令和2年度学校評価（自己評価のみ完成）

第2回 HSH 運営指導委員会並びに第2回学校評議員会について

1 日 時 令和3年3月18日(木) 11:45~12:45

2 場 所 いたみホール 会議室

3 出席者

(1) HSH 運営指導委員

| 名 前 | ふりがな | 所 属 等 |
|--------|-------------|------------------------|
| 三谷 稔 | みたに しげる | 伊丹市緑ヶ丘自治会会長 |
| 石川 慎一郎 | いしかわ しんいちろう | 神戸大学 大学教育推進機構教授 |
| 佐藤 由紀子 | さとう ゆきこ | 伊丹市立美術館館長 |
| 柴原 清高 | しばはら きよたか | 小西酒造株式会社 取締役管理本部長 |
| 丸岡 正和 | まるおか まさかず | 松谷化学工業株式会社 広報室 部長代理 |
| 大西 規之 | おおにし のりゆき | 伊丹市立西中学校校長 |
| 棚野 哲朗 | なぎの てつろう | 本校PTA会長 |

(2) 本校職員

| 名 前 | ふりがな | 分 掌 等 |
|--------|-----------|--------|
| 磯村 要 | いそむら もとむ | 校長 |
| 牧野 徹 | まきの とおる | 教頭 |
| 山本 武司 | やまもと たけし | 事務長 |
| 上山 照仁 | うえやま てるひと | 総務図書部長 |
| 村松 伸一 | むらまつ しんいち | 教務部長 |
| 大前 淳 | おおまえ あつし | 生徒指導部長 |
| 松村 敦 | まつむら あつし | 進路指導部長 |
| 大上 佐苗 | だいじょう さなえ | 保健部長 |
| 中山 圭二 | なかやま けいじ | 企画国際部長 |
| 北村 昌靖 | きたむら まさやす | 1学年主任 |
| 乾 充広 | いぬい みつひろ | 2学年主任 |
| 五ノ井 幹也 | ごのい みきや | 3学年主任 |
| 松浦 雅代 | まつうら まさよ | 企画国際部 |
| 黒田 由喜 | くろだ ゆき | 企画国際部 |

令和2年度 ひょうごスーパーハイスクールの取組

1 第1回運営指導委員会での主な指導・助言等

(1) 好奇心旺盛な人材の育成

海外の人と対等にやっていけるような、好奇心旺盛な人材育成するため、国際交流や探究学習で経験や体験させることが大切だ。

(2) 地域に参加する取組の推進

本年度は国際活動が難しい。身近な地域の自治会等に生徒が参加することで、地域での新しい取組が進んで行けばよいと思う。

(3) 登下校時の安全・安心指導

登下校時の自転車での交通マナーは最も気を付けてほしい。自転車で広がったり、スピードを上げたりしているので危ない。

(4) 心のケア・新入生への配慮等

今後、来年度入学する中学3年生の気持ちを考えて受け入れてほしい。新型コロナウイルス対策のため不安が大きいと思われる。

2 指導・助言等を踏まえた取組

(1) 好奇心旺盛な人材の育成（県高SAKURAプロジェクト）

ア 探究活動

全教員が参加して、生徒が課題を見つけ、調査・研究を進めるとともにその成果を広く発信する活動の実施。

| 対 象 | 内 容 |
|---------------|--|
| 1年生 (278名) | 伊丹市の地域課題に関わる探究活動 ポスターセッションやプレゼンテーションによる成果発表 |
| 2年生 (278名) | ゼミワークでの論文作成を狙いとした探究活動 プレゼンテーションによる成果発表 |

イ 理数活動

地域の企業や大学と連携し、自然科学分野での興味、関心、知的好奇心を高める活動の実施。

| 対 象 | 内 容 |
|------------------------|--|
| 1年生 GLIS類型 (40名) | ①日本プレゼン・スピーチ能力検定協会の専門家によるプレゼン講座実施（2回） ②外国人講師による英語での生物・物理実験講座開催 ③JAXA研究者による日本の宇宙科学・技術講演会開催 ④関西学院大学での高校生課題研究発表会へ参加 ⑤本校外国人指導助手による実験講座実施 |

ウ 国際活動

海外の姉妹校等と連携し、交流を深めながら、英語でコミュニケーションする力を育成する活動の実施。

| 海外姉妹校 | 内 容 |
|----------------|----------------------|
| 台中第2高級中学校 | 交流の記録サイト開設（関係者限定公開） |
| Selwyn College | 令和3年度の実施に向けてメールによる調整 |

エ ことば文化活動

「ことば文化都市」を標榜する伊丹市の社会教育施設等と連携し、ことばの運用能力を高める活動の実施

| 対 象 | 内 容 |
|-----------------|--|
| 2年生 (278名) | 柿衛文庫の「伊丹市制施行80周年記念 鬼貫80句鑑賞文コンテスト」応募（優秀賞受賞 記念冊子32人掲載） |
| 2年生 (278名) | 伊丹市立演劇ホールでの演劇人による演劇指導実施（講師7人×2時間） |
| 1・2年生 (556名) | スタディタイムにおける言語活動の実施（1年生は新聞活用。2年生は新聞記事を用いたグループワーク） |
| 2・3年生 (588名) | (株)伊藤園の「第31回おーいお茶新俳句大賞」応募（都道府県賞受賞） |
| 文芸部 (2名) | ①伊丹市教育委員会人権啓発標語（優勝1、入選1、佳作1） ②兵庫短歌祭ジュニア部門（兵庫県歌人クラブ賞1、佳作1） ③河野佑子短歌賞 青春の歌（入選2） |

オ 自主活動

PTAや同窓会、地域と連携し、生徒自らが仲間とともに計画実施する、自主性や協働力を高める活動の実施。

| 対 象 | 内 容 |
|---------------|---|
| 全校生 (866名) | ①文化行事や親睦種目を盛り込んだ体育祭の実施 ②春季遠足等の代替となる秋季遠足の実施 ③修学旅行の代替となる学年旅行の計画 |
| 全校生 (866名) | PTAが主催する「生徒試食会」GOTO食堂キャンペーンの実施（試食生徒385名） |
| 生徒会 (30名) | 生徒会執行部を活性化させるため執行部の増員（生徒会新聞の発行、意見箱の設置、部活動紹介動画の作成、令和3年度県伊祭の企画立案） |

カ 教員研修等

探究活動やアクティブラーニングについて、外部から講師を招くなどして、授業研究会等を開催。

| 対 象 | 内 容 |
|---------------|---|
| 全教職員 (50名) | ①教員による研究授業（10回） ②教育実習生による研究授業（6回） ③東京大学大学院教授藤村先生による探究講演会（オンライン） |

(2) 地域に参加する取組の推進

ア 地域との参画

地域社会の一員としての自覚と責任を育成するため、地域とともにボランティア活動、文化・スポーツ活動等の実施。

| 対 象 | 内 容 |
|----------------------|----------------------------------|
| 3年生 保育選択者 (8名) | 保育園・幼稚園4団体が来校し、どんぐり拾いによる保育実習（8回） |

イ 地域メディアへの出演

県高生であることの誇りと自覚を育成し、本校の教育活動を発信するため、地域のラジオやテレビへ出演。

| 対 象 | 内 容 |
|------------------------------|--|
| 生徒会 吹奏楽部 ラグビー部 (8名) | エフエムいたみの「ラジオでオープンハイスクール」に出演 第1回 生徒会からの学校紹介 第2回 吹奏楽部とラグビー部の部紹介、活動について |
| 生徒会 フォークソング部 (10名) | サンテレビの「4時キャッチ」に出演 学校紹介と音楽演奏 |

(3) 登下校時の安全・安心指導

ア 高校生自転車交通事故防止アクションプログラム

伊丹警察署と連携し、交通ルールの理解とともに交通マナーの向上を目指す取組を実施。

| 対 象 | 内 容 |
|---------------|--------------------------------------|
| 1年生 (280名) | DVDを視聴しての事前学習並びに交通安全テスト、アンケートを実施(2回) |

イ 自転車通学の交通安全指導

自転車通学の交通ルール・マナー指導について、教職員による組織的な指導を実施。

| 対 象 | 内 容 |
|---------------|--|
| 全校生 (866名) | ①自転車通学許可制の実施(乗車指導、車検を行い、許可ステッカーを配布。規則違反者は許可取消) ②通学路3カ所で教員6名が登下校の観察・指導 |
| 該当生徒 (若干名) | 自転車通学について、地域からの苦情や交通事故があった場合、教員が現地へ出向いて指導・対応(1件10回) |

(4) 心のケア・新入生への配慮等

ア 心のケア

生徒が安心・安全な学校生活が送れるよう、保護者、キャンパスカウンセラー等と連携し、生徒の課題の早期発見、組織対応を実施。

| 対 象 | 内 容 |
|------------------------|---|
| 全校生 (866名) | ①学校生活についてのアンケート実施(学期に1回) ②アンケート結果に対するいじめ対応チームの対応(3回) ③家庭との連携体制構築(通知47回、HP164回更新) |
| 当該生徒 保護者 (延べ79名) | ①キャンパスカウンセラーによる教育相談(27回) ②キャンパスカウンセラーと関係教員の情報交換(27回) ③キャンパスカウンセラーと管理職の情報交換(学期に1回) |
| 全教職員 (54名) | ①発達障害生徒に係るカウンセリングマインド研修の開催 ②特別な支援を要する生徒に係る研修会の開催 |
| 全校生 全教職員 (910名) | ①生徒指導部通心(信)発行(47回) |

イ 中学生への情報提供

コロナ禍の中、中学生が安心して志望校が決定できるよう、本校の特色・魅力を積極的に周知。

| 対 象 | 内 容 |
|------------------------|--|
| 中学生 保護者 (1,236名) | 本校生が発表するオープンハイスクールの開催（6回） 内容：校長のあいさつ以外、すべて生徒が運営・進行。 司会・学校概要（放送部）、学校紹介（2年） 実践発表（2・3年）、体験談（1年） 部活動発表（コーラス部・吹奏楽部） 参加生徒：延べ94名 |
| 中学校等 | 管理職による広報活動 （中学校訪問25校、校長ブログ更新178回） |
| 伊丹全域 | エフエムいたみの「未来を託す人づくり」に校長出演 県高SAKURAプロジェクトについて |

(3) その他の取組

ア カリキュラム・マネジメント

(ア) スクール・ポリシーの策定

地域に開かれた教育課程を目指し、グラデュエイト・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーを策定し、スクール・ポリシーとして地域に発信。

(イ) 令和4年度の新教育課程編成

生徒が個性や資質・能力に応じた多様な将来の進路を実現できるよう、新学習指導要領に基づいた教育課程を編成。

(ウ) 令和4年度の週時程変更

新教育課程の実施にともない、平成23年度から実施する75分授業を含む週時程を検証の上、見直し、すべて50分授業の週時程に変更。

イ ICTの活用推進

(ア) ICT環境の整備

県立学校学びのイノベーション推進事業により全ホームルーム教室（22教室）に大型プロジェクターを設置、同時にタブレット164台を整備。現在使用可能なタブレットはSGH期のものを合わせて約200台。

(イ) 校内組織の改編

既存の情報機器活用委員会に加え、6月からICT推進委員会を設置。ICT機器のメンテナンスと授業等での活用の2本柱で取り組む。

(ロ) 教員研修の推進

ICT先導教員（兵庫エバンジェリスト）として教員を派遣し、校内で師範授業等の犬種会を開催（2回）

実践報告



○ はじめに

県立伊丹高等学校（県高）は、明治35年（1902）5月5日に旧制県立伊丹中学校として創立し、令和4年度（2022）に120周年を迎える。同年度は新学習指導要領（以下「新指導要領」）の導入初年度に当たり、社会変化に対応した新しい学びを学校の節目から始める好機となる。

そこで、本年度から2年先を見据え、さらなる飛躍をめざし、県教育委員会から「ひょうごスーパーハイスクール」（以下「HSH」）の指定を受け、すべての教職員で新しい事業に取り組むこととした。ここでは我々が新事業の実施に向けて取り組んだ学校組織マネジメントとして、検討の経緯、教育理念の策定、教育活動の改善の3点について述べる。

1 検討の経緯

(1) 課題認識

ア 教育理念の掲揚

本校はさまざまな教育活動を展開しているが、すべての教育活動の方向性が一致しているとは言いがたい状況があった。

主な教育活動は、①創立当時から継承する校訓「誠実、克己、忠恕」に基づく人間性の涵養、②平成21年度（2009）に設置した特色類型から現在のグローバルリーダーズインサイエンス類型（以下「GLiS」）が継承する理数教育、③平成27年度（2015）から国が指定するスーパーグローバルハイスクール事業（以下「SGH」）で取り組んだ課題研究や英語教育である。これらはそれぞれに成果を上げているが、相互に関連が薄く、相乗効果を生むまでには至っていなかった。

そこで、新しい教育理念を掲げ、全体を一つの大きな事業としてまとめることで、より

豊かな魅力・特色の醸成が可能であると考えた。

イ SGHの継承・発展

昨年度をもってSGH事業が5年間の指定期間を終了した。そのため、国から支援を受けた教育活動を継承・発展させるべく、学校として新しい方策を打ち出す必要があった。

ウ 広報の強化

平成27年度の通学区域再編により、本校では伊丹市内から通う生徒の割合が6割から4割に減少した。加えて、近年、市内の中学校卒業見込者数が急減するとともに、本年度から私学の実質無償化も始まり、市内も含め広域の中学生に対する広報がますます重要になっている。

(2) 検討組織

これらの課題を教職員で共有した上で、校内に検討会議を設置した。

| | |
|----|------------------|
| 名称 | 県高ポリシー検討会議 |
| 構成 | 管理職、主幹教諭、教諭 計8名 |
| 回数 | 4回（令和元年10月から月1回） |

会議では、①全ての教育活動がめざす人物像や資質・能力の策定、②既存の教育活動の廃止・拡充並びに新しい教育活動の提案、③広報で打ち出すイメージづくり、④新たに応募する県や国の指定校事業の選定について話し合った。

会議の内容は議事概要としてまとめ、校務運営委員（部長・学年主任）に供覧するとともに電子データで教職員に公開した。12月には職員会議で、途中経過を校長から報告の上、協議した。それらを踏まえて原案を練り直し、1月の職員会議で実施を決定した。

なお、検討会議は本年度設置する実行会議と対になる。検討会議は育成すべき資質・能

力の方針（ディプロマポリシー）を明確にし、実行会議は事業の実践を踏まえて新教育課程の編成・実施に向けた方針（カリキュラムポリシー）を策定する。2つの方針に基づき、新指導要領が謳うカリキュラムマネジメントを進める。

2 教育理念の策定

(1) 基本理念

第3期「ひょうご教育創造プラン」に示されているとおり、情報技術や科学技術などの急速な発展により、さらにグローバル化が進み、変化が激しく、予測が難しい社会が到来しつつある。そのような中、生徒たちが生きがいを持って豊かな人生を送り、魅力と活力のある新しい社会を創造するためには、世界に視野を開くとともに自己がよって立つ地域社会を直視して、未来への道を切り拓かなければならない。

(2) めざす人物像

本校28回生に奥克彦という方がいる。奥さんは13連敗中の本校ラグビー部を全国大会に出場させた立役者である。後に外交官としてイラク戦争後の復興人道支援で現地に赴き、不幸にも凶弾に倒れられたが、文字通り懸命にイラクの人々のために奔走された。昨年、ワンチームのスローガンの下、盛り上がったラグビーW杯を日本に招致する原動力となった方でもある。

上述の基本理念に基づくと、これからの社会には奥さんのような、世界でも地域でも夢や志を抱き、仲間とともに困難を克服して実現する人物がますます必要とされる。

そのため、このような人物をグローバルリーダー（以下「GL」）と名付け、育成をめざすこととした。GLはこれまでGLiSの目標とし、学校全体に波及するよう取り組んできたが、社会から広く求められる人物像として再定義し、学校全体の育成目標として一層明確にした。

GL：世界や地域の課題を自分自身の課題とし、解決に向けて探究するとともに仲間と一緒に活動する人物

(3) 3つの心と4つの力

GLとして求められる資質・能力については、新指導要領に準拠することを基本とし、

校訓とSGHで育成をめざした資質・能力を取り込み、「3つの心と4つの力」としてまとめた。

| | | |
|------------------|-----|----------------------------|
| 3 つ の 心 | 誠 実 | 偽りのない真心 |
| | 克 己 | 己に打ち克つ心 |
| | 忠 恕 | 他を思いやる心 |
| 4 つ の 力 | 読解力 | 知識・技能を身に付け、ありのままに理解する力 |
| | 思考力 | 知識・技能を駆使し、論理的・批判的に考え、判断する力 |
| | 協働力 | 貢献の意志を持ち、多様な人々とともに活動する力 |
| | 探究力 | 自ら問いを発し、調査・研究を深めるとともに発信する力 |

新指導要領では育成をめざす資質・能力として、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の3つを上げている。本校では、①は能力として明確にし、ありのままに理解する力として「読解力」とした。②はSGHの研究成果を踏まえて、「思考力」、「協働力」、「探究力」の3つに分けた。③は校訓がその内容を示していると考えて3つの心をそのまま上げ、より重視する意味から順序を入替え最初に記した。

3 教育活動の改善

(1) 5つの活動

SGHで毎年実施した生徒アンケートが興味深い結果を残している。「問題を解決する力」の測定を目指したテスト（GPS-Academic）の受験後、「最も役に立った高校での授業・活動は何か」と問うと、①国語、②総合的な学習の時間、③学校行事や部活動が必ず上位を占めた。

教育活動を改善するに当たり、いくつかの教育活動をまとめる大きな枠組みを設定することとし、アンケート結果から、①を「ことば文化活動」、②を「探究活動」、③を「自主活動」とした。さらに、SGHでの海外フィールドワークに基づく「国際活動」、GLiSで培った「理数活動」を加えて5つの枠組みを決めた。

また、各教育活動がより魅力・特色あるものとなるよう、その特性に応じて、地域や海外の多様な組織と連携し、協力を仰ぐこととした。

| | |
|---------|---|
| 探究活動 | 伊丹市と連携し、生徒が課題を見つけ、調査・研究を進めるとともにその成果を広く発信する活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題を解決する総合探究 <input type="checkbox"/> 教科での探究活動 <input checked="" type="checkbox"/> 探究活動に係る教員研修 等 |
| 理数活動 | GLiSを中心として、地域の企業や大学と連携し、自然科学分野での興味、関心、知的好奇心を高める活動 <input type="checkbox"/> 企業人等による理数特別講義 <input type="checkbox"/> 大学等の研究機関訪問 <input type="checkbox"/> 理数系ALTによる専門授業 等 |
| 国際活動 | 海外の姉妹校等と連携し、交流を深めながら、英語でコミュニケーションする力を育成する活動 <input checked="" type="checkbox"/> ニュージーランドの高校への短期留学 <input type="checkbox"/> 台湾の高校との国際交流修学旅行 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン会議での研究交流 等 |
| ことば文化活動 | 「ことば文化都市」を標榜する伊丹市の社会教育施設等と連携し、ことばの運用能力を高める活動 <input checked="" type="checkbox"/> 市立劇場の指導による演劇制作 <input type="checkbox"/> (公財) 柿衛文庫の懸賞俳句作成 <input type="checkbox"/> 小学生対象の生徒英語授業 等 |
| 自主活動 | PTAや同窓会、地域と連携し、生徒自らが仲間とともに計画実施する、自主性や協働力を高める活動 <input type="checkbox"/> 自由自治の生徒会活動 <input type="checkbox"/> 相互信頼を築くホームルーム活動 <input checked="" type="checkbox"/> 将来も持続可能な部活動 等 |

※ は新たに実施する教育活動。
 は従来の活動を拡充する教育活動。

(2) 推進組織

ア 校内組織

新たな専門部を設置し、地域や海外の組織との連携や探究活動の調整役とした。あわせて、ICT活用を進める委員会を新設した。

イ 学校関係者組織

連携組織の代表による委員会を設置し、指導助言や事業評価を得ることで、教育活動を

さらに改善し、社会に開かれた教育課程を実現する。

| | |
|----|----------------------------------|
| 名称 | HSH運営指導委員会 |
| 構成 | 学識者、自治会・社会教育施設・企業・PTA・中学校の代表者 7名 |
| 回数 | 2回(7月・2月) |

(3) 名称とシンボル

事業の鍵となる言葉を英語にし、その頭文字から、事業名を「県高SAKURAプロジェクト」とした。加えて、本校には明治時代に伊丹市がワシントンへ贈った桜の子孫樹「里帰り桜」が植えられているので、これを事業シンボルとした。

| |
|-------------------------|
| 頭文字： |
| Science=理数、Autonomy=自主 |
| Kotobabunka=ことば文化(固有名詞) |
| Universe=国際、Research=探究 |
| Activity=活動 |

本校の全ての教育活動が1本の、樹齢120年の大桜となり、生徒たち一人一人が活力あるGLとして、世界でも地域でも夢や志を花咲かせたい。強い願いを込めて、生徒や保護者に説明し、理解と協力を求めるとともに地域や中学生に広報し、本校への興味・関心を高めてもらう。

○ おわりに

事業実施を決めた後に、新型コロナウイルスが世界に蔓延した。そのため、教育活動の中には中止又は変更を余儀なくされるものがある。そればかりか、オンライン授業が進むことにより、学校教育の在り方そのものが、根本から問われることとなった。

歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリはコロナ禍が始まる前に、「多くの場合、オンラインはオフラインの犠牲の上に成り立っており、両者には根本的な違いがある」と既に指摘していた(『21レッスズ』)。この度、多くの教職員がこのことを痛感したのではないかと。我々は学校教育本来の姿に立ち返り、オフラインの豊かさを信じて、できることを一つ一つ積み上げながら「県高SAKURAプロジェクト」を進める。

県高スクール・ポリシー

県立伊丹高等学校は、令和4年度から、社会の劇的な変化や高校生の多様化、少子化の影響を踏まえ、新しく導入・実施する学習指導要領に準拠するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を通じて使命を再認識し、下記のとおり新時代に向けた「県高スクール・ポリシー」を定めます。

なお、令和3年度については、現行学習指導要領に基づきつつ、可能なところから本ポリシーを先取りした教育活動を実施します。

記

1 県高グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

(1) 育成を目指す人物

世界や地域の課題を自分の課題として、解決に向けて探究するとともに、仲間と一緒に活動する人物、グローバル・リーダー（以下、「GL」）を育成します。

(2) GLに求められる資質・能力

座学のみならず地域等と連携した多彩な活動等に取り組み、将来予測が困難な時代に未来を切り拓くGLに必要な3つの心と4つの力を身に付けます。

| | | |
|--------------|-----|----------------------------|
| 3つの心 (校訓) | 誠 実 | 偽りのない真心 |
| | 克 己 | 己に打ち克つ心 |
| | 忠 恕 | 他を思いやる心 |
| 4つの力 | 読解力 | 知識・技能を身に付け、ありのままに理解する力 |
| | 思考力 | 知識・技能を駆使し、論理的・批判的に考え、判断する力 |
| | 協働力 | 貢献の意志を持ち、多様な人々とともに活動する力 |
| | 探究力 | 自ら問いを発し、調査・研究を深めるとともに発信する力 |

2 県高カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

GLに求められる3つの心と4つの力を育成するため、次の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

(1) 基本方針

幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに健やかな身体を養い、生徒が個性や資質・能力に応じた多様な将来の進路を実現できるように教育課程を編成・実施します。

(2) 「県高SAKURAプロジェクト」の実施

ア 探究活動

地域や世界の課題に正対し、生涯にわたって探究を深めることができるよう、高校3年間を通して一貫した「総合的な探究の時間」を行うとともに、各教科・科目で主体的・対話的で深い学びの実現を目指した探究活動を進めます。

イ 理数活動

理数を学ぶ意義を実感し、理数への関心を高められるよう、グローバル・リーダーズ・イン・サイエンス (GLiS) 類型を設置し、自主性を重んじた探究活動や、地域企業や大学と連携した特殊講義、研究機関訪問を行います。

ウ 国際活動

世界に視野を広げ、世界の人々と協働できる資質を身に付けるよう国際交流修学旅行を実施するとともに、英語でのコミュニケーション力を活かしてグローバルな課題の解決を目指した短期の留学を伴う選択科目を設置します。

エ ことば文化活動

言語文化への関心を高め、言語による発信力を強化するため、「ことば文化都市」伊丹の社会教育施設と連携した演劇祭を行うとともに、各教科・科目で自分の意見を表明する議論、観察や調査のまとめ等の言語活動を行います。

オ 自主活動

自立した人間として他者と共によりよく生きる力を身に付けるよう、創立以来培ってきた自由自治の校風を推進するとともに、PTAや緑窓会（同窓会）、地域等との協力・連携体制を確立し、生徒会活動、HR活動、部活動を行います。

(3) 体育活動の推進

スポーツの意義を理解し、生涯を通じてスポーツに親しむ態度を育むため、地域資源を活かした体育の授業や生徒が中心となる体育祭、地域と連携した運動部活動等、特色ある体育活動を行います。

(4) ICTの活用

情報活用能力を育成し、高度に情報化していく社会に対応できるよう、ICT環境を整備するとともに各教科・科目で新しい技術を活用した教育活動を実施し、実体験を通じた情報モラルの向上を図ります。

(5) 特別な配慮を必要とする生徒への対応

生徒、保護者等から一人一人の教育ニーズ等を把握した上で、個々の生徒の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を検討し、学校としてできる限りきめ細かく適切な指導と必要な支援を行います。

(6) 多様な評価の実施

生徒の資質・能力を育成する観点から、生徒のよい点や変容等を評価するため、各教科・科目で評価の場面や方法を工夫するとともに、外部の模擬試験等により生徒の実力等を診断し、それぞれの個に応じた進路実現に活かします。

以上、令和3(2021)年1月20日策定

令和3年3月23日

生徒並びに保護者の皆さま

県立伊丹高等学校長

令和4年度からの週時程の変更について（予定）

県立伊丹高等学校は、令和4年度から、新しく導入する学習指導要領（以下、「新学習指導要領」）に基づき、下記のとおり週時程を変更することとします。多様で柔軟な教育活動を実現するため、御理解いただきますようお願いいたします。

記

1 週時程の変更

| 令和4年度から | 令和3年度まで |
|-------------|-----------------------|
| 週2回 50分授業×7 | 月 15分S T + 50分授業×6 |
| 週3回 50分授業×6 | 火～金 75分授業×1 + 50分授業×5 |

2 変更の狙い**(1) 多様で幅広い教育課程の編成**

新学習指導要領に対応し、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成するため、すべての生徒がより多様で、幅広い科目を学ぶことができる教育課程を編成します。

(2) 柔軟な時間割の作成

科目の特色に応じて2時間連続授業などを組み込むことができたり、自習時間とならないよう容易に時間割変更ができたりする、より柔軟な時間割を作成します。

(3) 部活動時間の充実

7校時実施日に休養日を確実に設定することにより、ゆとりある高校生活を確保するとともに部活動に集中して取り組むことができる体制を整備します。

3 備 考

7校時を実施する曜日や時間帯の詳細については、令和4年度教育課程を編成した後、令和3年度のできるだけ早い段階で決定し、改めてお知らせします。

送付状

兵庫県立伊丹高等学校
生徒指導部 大前 淳先生

〒664-8503 伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市 都市交通部 交通政策室 都市安全企画課

担当:交通安全指導員 矢野美佐

TEL:072-784-8055 (都市安全企画課直通)

FAX:072-780-3531

E-mail:toshianzen@city.itami.lg.jp

至急! ご確認ください 折り返しご連絡ください ご参考まで

連絡事項

いつも大変お世話になっております。いよいよ2020年もあとわずかとなりました。いかがお過ごしでしょうか。

今年はコロナウィルス感染症の発生により、生活も経済も大変な状況となり、緊急事態宣言が出された時には外出もなくなったことで、交通事故件数は下がりましたが、解除後はまた徐々に増加し、非常に苦慮しているところです。

12月は『自転車安全利用街頭啓発強化月間』として、毎日15時から19時まで、阪急JR伊丹駅周辺や自転車レーンのある行基町、宮ノ前周辺において指導を行ってまいりました。しかしながら、この強化期間中に171号線沿いにある高台の歩道上で、自転車が小学校男児に追突し、大腿骨骨折という大怪我を負わせてしまう事故が起きてしまいました。自転車と歩行者の接触事故が市内全域で発生しており、成果の出ない啓発活動に意気消沈しておりました。

そんな中、県立伊丹高校の校長先生のブログを拝見しました。

12月17日付のブログで、通学時の様子を取り上げていらっしゃいました。

総監部前において、生徒さんが左側通行を守って進んでいる様子が掲載されていてとてもうれしかったです。

啓発や指導は、事故減少という結果にすぐ結びつかず、気の遠くなる活動ですが、このブログに勇気づけられました。

来年度も兵庫県警はアクションプログラムを実施するとお聞きしています。

あらゆる手段で伊丹のまちから交通事故をなくすために、引き続き取り組んでまいります。

今後ともよろしくお願いいたします。

来年もどうぞよろしくお願いいたします!
指導員 ありがとうございます。
矢野

天を仰いで 466 マニュアルを越えて

投稿日: 2020年12月17日 作成者: 県立伊丹



本校では生徒指導部長が生徒向けに「生徒指導通心(信)」を発行しています。5月の休校期間から始まって、夏季休暇を除いて1週間に1回以上のハイペースです。読むといつも心が温まり、勇気づけられ、よし！ボクも頑張ろう！と思わせてくれます。

本日、配布される第34号を飾るのは上の写真です。毎朝、登校時刻に部長は自衛隊の総監部前に立っていますが、その時に撮影したものです。特に厳しく注意したわけではないのに、県高生はみんな車道の左端を整然と走行しています。部長は「『これまでの学校のマニュアル』を越えた登校風景だ」と感動して記しています。晩年を阪神間で暮らした教育者、[森信三](#)さんの言葉を思い出しました。

ネジをしめるとは、両親自身が自己の実践に対して、新たにネジを巻くと同時に、子どもらに対しても、つねに賞讃のコトバを惜しまぬということであろう。『若き友への人生論』

家庭教育での「しつけ」という「ネジ」は歳を重ねるごとに次第に緩んでくる傾向があるのでしめ直さなければならぬと述べた後に続く言葉です。この論法でいくと、最も「ネジ」がゆるんでいるのは、年長者ということになります。われわれ大人もこの写真から自分の「ネジ」を巻き直させてもらいます。県高生の自転車マナーは素晴らしい！

カテゴリー: [校長室から](#) [パーマリンク](#)

新型コロナウイルス感染拡大防止に関する 臨時休業中の取組について

1 期 間

令和2年3月3日～5月31日（春季休業を含む。）

2 目 標

生徒並びにその家族、教職員、地域の安全を確保し、安心を醸成するとともに、生徒の学力を保障するため、学校の教育活動について、可能な限り情報を発信し、理解と協力を得ることを目標とした。

3 内 容

(1) 安全の確保

ア 新しい生活様式の周知徹底

学校から生徒並びに保護者に対し、①咳エチケット、②マスク着用、③3密の排除、④消毒・手洗いの徹底等について周知し、理解・協力を求めた。

イ 風邪症状等生徒、家族が出た場合の対応

家庭との連携体制を確立し、風邪症状者等の把握に努めるとともに、出欠席の取扱いを適切に行った。

ウ 「学校再開要領」の策定

学校再開に際し、安全を確保した対応が学校全体で確実に実施できるよう、国や県の通知を参酌して学校の要項を策定した。

(2) 安心の醸成

ア 学校からの確実な連絡方法の確保

学校から生徒並びに保護者に確実に連絡できるよう、次の①～⑤の多様な方法を確認し、用途に応じて使用した。

なお、これらの内、③～⑤については、地域との情報共有の一助となった。

| 方 法 | 件 数 | 用 途 |
|---------|-----|---------------------|
| ① 郵 送 | 2件 | 学習課題、アカウント登録関係文書の配付 |
| ② 緊急メール | 23件 | コロナ関係通知の発出 |
| ③ 公式HP | 39件 | 学校全般、コロナ関係通知の掲載 |
| ④ 公式ブログ | 44件 | 管理職の発信 |
| ⑤ 特設ブログ | 94件 | コロナ関係通知の掲載、教職員の発信 |

イ 双方向コミュニケーションの確立

生徒の不安を受け止めるとともに、生徒一人一人に対応した支援ができるよう、次の①、②の方法を確立し、仮想HR等を構築した。

| 方 法 | 件 数 | 用 途 |
|--------|---------|------------------|
| ① エドモド | 約1,300件 | HRの連絡等（各クラス1日2件） |
| ② ズーム | 21件 | 部活動の連絡等 |

(3) 学力保障

生徒の学力を保障するため、紙媒体による学習課題の配付とともに、次の①～③により、教材を提供して学習指導をすすめ、学習の進捗状況を確認した。

| 方 法 | 件 数 | 用 途 |
|-----------|------|------------------|
| ① エドモド | 270件 | 学習課題の指示、小テストの実施等 |
| ② ユーチューブ | 114件 | 学習動画の配信 |
| ③ スタディサプリ | 51件 | 学習課題、学習動画の配付 |

4 今後の課題

(1) 臨時休業中の授業・行事

ア 授 業

| 課 題 | 対 応 案 |
|---------|--|
| 授業日数の確保 | 夏季休業期間の短縮（8/1～8/19） 球技大会等、学年行事の中止 |
| 授業の効率化 | 校務分掌にICT推進委員会を新設 ICT先導教員（Eバングレリスト）の養成 |

イ 行 事

| 中止した主な行事 | 対 応 案 |
|---------------------------|--------------|
| 1年生オリエンテーション合宿 2、3年生遠足 | 1～3年生秋季遠足 |
| 文化祭 | 体育祭での文化行事の実施 |
| 国際修学旅行（1月台湾） | 国内修学旅行（1月沖縄） |

(2) 県高SAKURAプロジェクトの展開

ア 活 動

| 中止した主な活動 | 対 応 案 |
|------------------|-----------------|
| 市立劇場による3年生の指導 | 2年生に拡充して実施 |
| 台湾高校生受入（11月） | 令和3年3月に実施 |
| ニューヨーク研修（令和3年3月） | ニュージーランド短期留学の準備 |

イ 広 報

- ・学校案内を伊丹市、川西市、猪名川町、宝塚市の中学3年生全員に配布
- ・オープンハイスクール等を6回開催（例年より1回増）
- ・FMいたみ放送に校長・生徒出演

(3) 感染症に対する不安の払拭等、生徒の心のケア

引き続き生徒の見守りを強化し、面談を繰り返すとともに、キャンパスカウンセラーにも協力を求めながら、保護者と連携して生徒の心のケアに努める。

令和2年度6月以降の取組

| 月 | 日 | 曜 | 授業・行事 | 生徒・保護者への通知 等 |
|----|----|---|-----------------------------|---|
| 6 | 1 | 月 | 1・2年分散登校（～6/12） 3年平常授業再開 | |
| | 9 | 火 | | 30 6/15以降の教育活動 |
| | 15 | 月 | 1・2年平常授業再開 | |
| | 22 | 月 | 部活動完全再開 | |
| 7 | 14 | 火 | | 31 8/1以降の教育活動① |
| | 20 | 月 | 1学期期末考査（～7/28） | |
| | 29 | 水 | 家庭学習日（～7/30） | |
| | 31 | 金 | 1学期終業式 | 32 8/1以降の教育活動② |
| 8 | 1 | 土 | 夏季休業（～8/19） | |
| | 20 | 木 | 2学期始業式（放送による実施） | |
| | 28 | 金 | | 33 「県高特設ブログ」の閉鎖について |
| | 31 | 月 | | 34 休日における学校への連絡について |
| 9 | 11 | 金 | | 35 体育祭における新型コロナ及び熱中症予防等について |
| | 12 | 土 | オープンハイスクール | |
| | 23 | 水 | | 36 秋季遠足の実施について |
| | 29 | 火 | 体育祭 | |
| 10 | 8 | 木 | 生徒会立会演説会・選挙 | |
| | 13 | 火 | 2学期中間考査（～10/20） | |
| | 15 | 木 | 創立記念日（休業日） | |
| | 22 | 木 | 秋季遠足 | |
| | 24 | 土 | オープンハイスクール | |
| | 26 | 月 | 全校朝礼（体育館で実施） | |
| | 28 | 水 | | 37 令和2年度修学旅行の実施について |
| 11 | 7 | 土 | 県高説明会 | |
| | 12 | 木 | 芸術鑑賞会（いたみホール） | |
| | 16 | 月 | 研究授業週間（～11/20） | |
| | 24 | 火 | 3年8組臨時休業（～11/26） | 38 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底について |
| 12 | 8 | 火 | 2学期期末考査（～12/14） | |
| | 18 | 金 | | 39 令和2年度修学旅行の中止について |
| | 24 | 木 | 2学期終業式（放送による実施） | |
| 1 | 8 | 金 | 3学期始業式（放送による実施） | 40 緊急事態宣言を踏まえた対応について① |
| | 14 | 木 | | 41 緊急事態宣言を踏まえた対応について② |
| | 25 | 月 | 3年家庭学習日（～2/25） | |
| 2 | 2 | 火 | | 42 タブレットの取り扱いについて |
| | 8 | 月 | 2年校内成果発表会 | |
| | 15 | 月 | 家庭学習日（特色選抜準備） | |
| | 16 | 火 | 特色選抜 | |
| | 17 | 水 | 1年校内成果発表会 | |
| | 19 | 金 | 学年末考査（～2/26） | |
| | 26 | 金 | 卒業式予行・表彰式 | 43 卒業式における対応について 44 修学旅行の代替となる学年旅行の実施について |
| 3 | 1 | 月 | 卒業式 | |
| | 5 | 金 | | 45 緊急事態措置区域からの除外を踏まえた対応について |
| | 11 | 木 | 家庭学習日（学力検査準備） | |
| | 12 | 金 | 複数志願選抜学力検査 | |
| | 15 | 月 | 家庭学習日（～3/16） | |
| | 18 | 木 | 校外成果発表会（いたみホール） | |
| | 23 | 火 | 終業式 合格者説明会 | 46 学習支援サービスの運用について 47 令和4年度からの週時程の変更について（予定） |